

里山保全のための 竹林整備プロジェクト

近年、里山の手入れが不十分なため、竹林の過密状態や人工林・雑木林への侵入が進み、山の保水力低下や生態系の多様性喪失等の問題が各地で報告されています。自然や生態系の持続可能な環境を保持するためには竹林の手入れが必要な時期に来ています。しかし、竹林については、政府内で担当部門が明確でなく、対応は後手に回っています。また、里山は個人、地域、自治体、国、企業など所有形態が複雑で一元的な管理が困難であり、所有者が協働で管理する仕組みを作る必要があります。

以上のような課題を解決する社会実験として、地域の皆さん、ボランティア、九州大学及び福岡大学の学生の皆さんとNPO タウン・コンパスの協働で佐賀県武雄市、福岡市、志摩町の竹林・竹やぶを手入れしてきました。

伐採した竹は竹チップや竹綿に加工し、堆肥や雑草防止用敷設材として一般家庭の庭、公園、駐車場など、街中での使用ができるため、雑草対策には非常に有効と考えられます。

本プロジェクトは、里山の保全と竹の有効活用を通して、地域の水循環や資源循環につながり、地域コミュニティの活性化を期待するものです。



竹林伐採状況例（佐賀県武雄市）



竹林伐採状況例（福岡市東区）長谷ダム



竹チップをマルチ材として敷設



竹チップ製造

竹の有効活用の可能性

竹炭
竹細工
建築資材 等

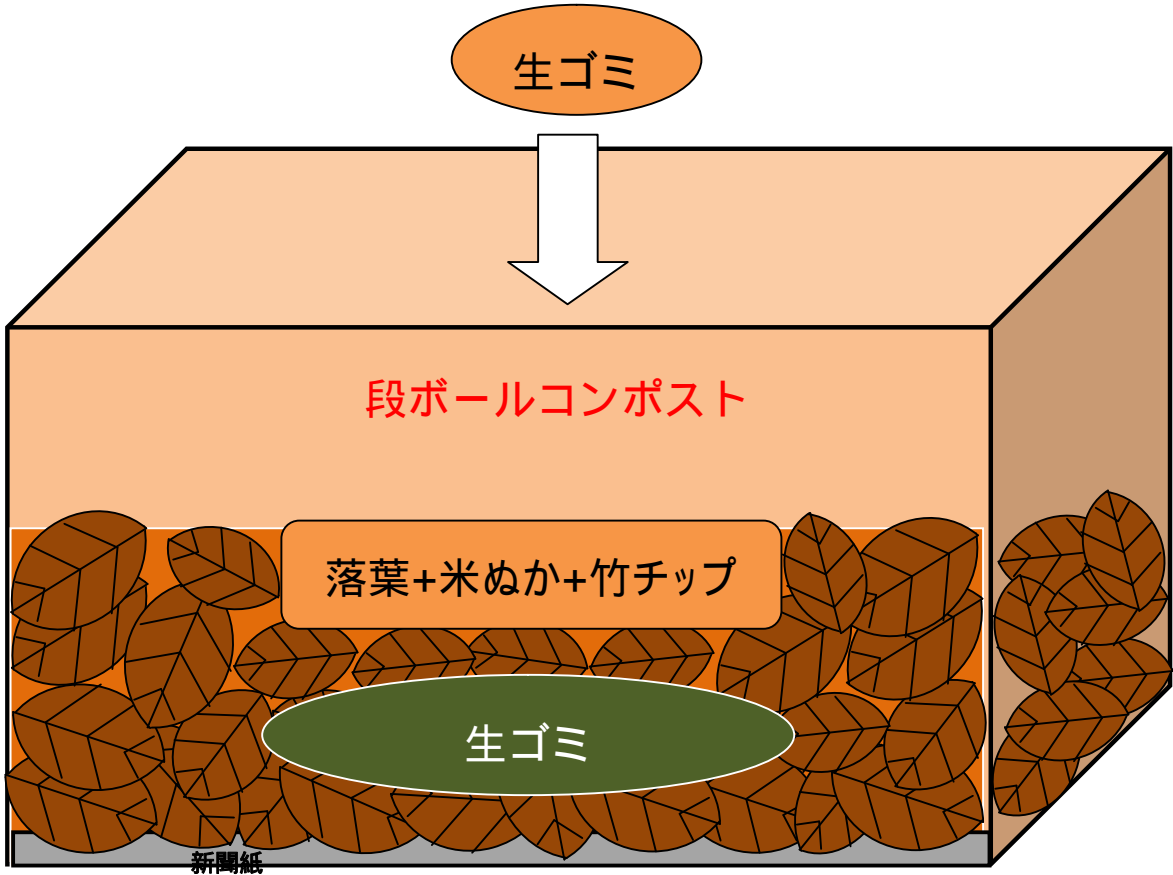


市場が小さい
代替品が多い

竹の綿・竹チップ	
農業	堆肥化
	土壌改良材
	マルチ材
生活	雑草防止 庭・植樹帯の根元に敷設
	温暖化抑制 駐車場・公園遊歩道
	バイオ燃料
	生ゴミ処理 段ボールコンポスト (落葉 + 米ぬか + 竹チップ), 竹の綿

大量の竹が必要 < 代替品が少ない >

多くの人々に利用されると経済活動の拡大につながる可能性有



竹チップを利用した生ゴミ処理